

短報 Short Report

広島県におけるシロシャクジョウ *Burmannia cryptopetala* Makino (ヒナノシャクジョウ科) の新産地

佐久間智子

New locality of *Burmannia cryptopetala* Makino (Burmanniaceae) in Hiroshima Prefecture, Japan

Tomoko Sakuma

摘要

2018年に広島県広島市安佐北区宇賀峡のヒノキ植林地において、シロシャクジョウ *Burmannia cryptopetala* Makino (ヒナノシャクジョウ科) を確認した。さらに、2024年及び2025年の調査でも同地点において約100個体の生育を確認した。これまで中国地方では広島県廿日市市宮島でのみ生育が知られており、宇賀峡は本種の2例目の生育地となる。

キーワード：宇賀峡，菌従属栄養植物，シロシャクジョウ，新産地，絶滅危惧植物

Summary

Burmannia cryptopetala Makino (Burmanniaceae) occurrence in a Japanese cypress (*Chamaecyparis obtusa*) plantation in 2018 was confirmed within Ugakyo, located in Asakita-ku, Hiroshima City, Hiroshima Prefecture, Japan. The population consisted of approximately 100 plants in 2024 and 2025. To our knowledge, this is the second record of *B. cryptopetala* in the Chugoku region.

Keywords: *Burmannia cryptopetala*, endangered plants, mycoheterotrophic plants, new locality, Ugakyo

はじめに

シロシャクジョウ *Burmannia cryptopetala* Makino は菌従属栄養植物の多年草であり、国内では、本州（近畿）、四国、九州、屋久島、種子島、琉球列島（沖縄島、久米島、石垣島、西表島）に分布する（大橋ほか 2015）。サイエンスミュージアムネットには、2025年10月18日時点で、9都県（東京都、三重県、滋賀県、兵庫県、高知県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）から31件の標本が登録されている。中国地方では、2007

年に広島県廿日市市宮島で生育が確認されたのみであり（向井ほか 2007）、広島県の絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）に選定されている（広島県 2022）。2018年8月28日に、著者は広島市安佐北区宇賀峡のヒノキ植林地で本種の生育を新たに確認した。本稿では、2024年及び2025年の当該生育地における生育状況及び環境について報告する。

生育状況

2024年8月11日及び8月18日、2025年8月

14日に現地を踏査し、1名で目視により個体数を記録した。2024年の調査では70個体、2025年の調査では108個体を確認した。生育範囲は10 m × 25 mであった。つぼみから開花状態の個体が

多かったが、芽生えばかりの個体もあった（図1d, e）。

証拠標本（広島市植物公園で保管）：シロシャクジョウ（tom-240001）

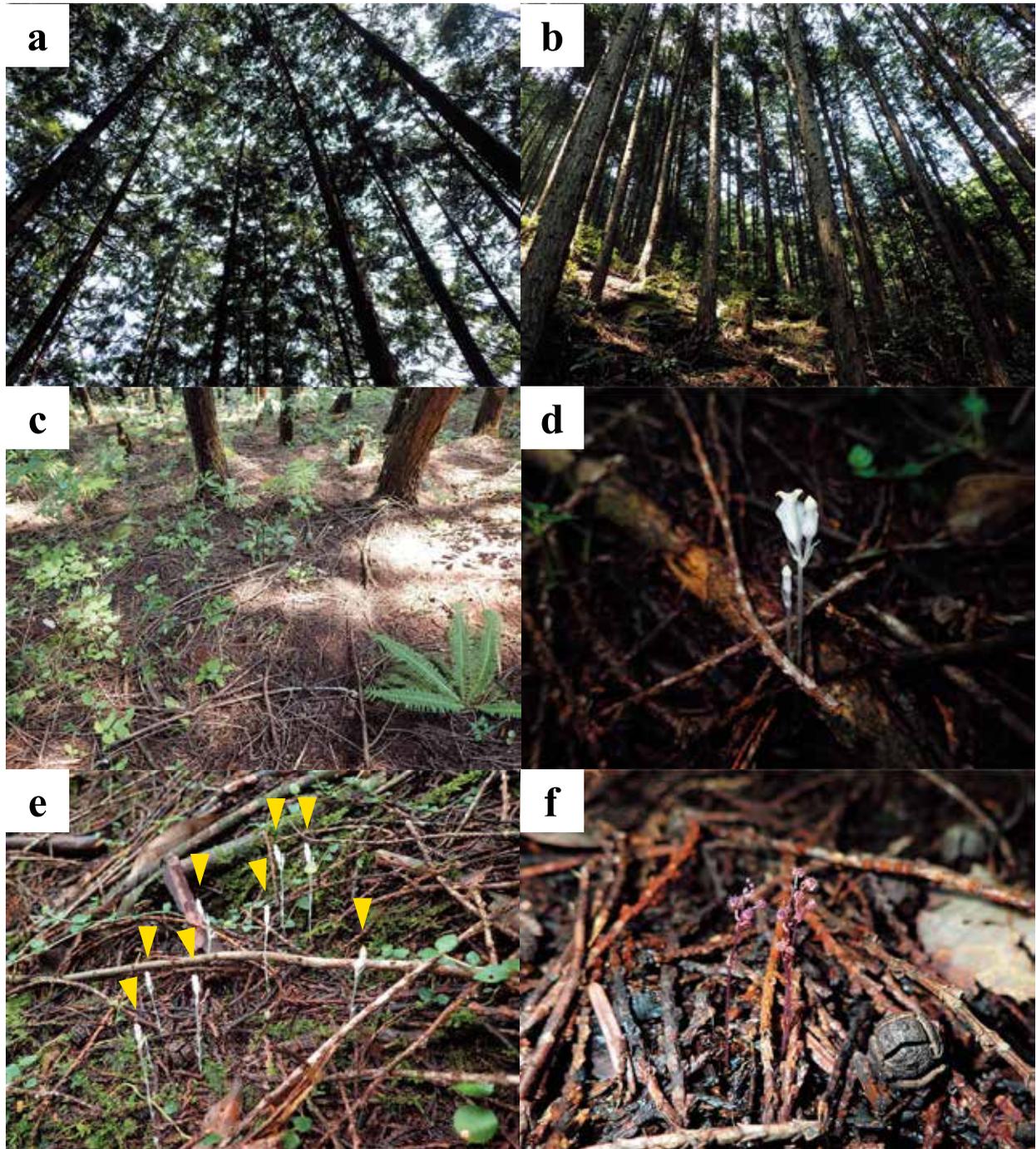


図1. 生育個体と生育環境の写真（撮影日は2025年8月14日）

a: 生育地の林冠. b: 生育地の林内. c: 生育地の林床. d: シロシャクジョウ. e: シロシャクジョウを黄色の▼で示した. f: ホンゴウソウ.

Figure 1. Photographs of individuals and habitats. Photographed on August 14, 2025.

a: Canopy condition of the habitat. b: Conditions inside forest habitat. c: Forest floor conditions in the habitat. d: *Burmannia cryptopetala*. e: *B. cryptopetala* individuals are indicated by yellow triangles. f: *Sciaphila nana*.

生育環境

2025年8月14日に生育環境を調べるために、生育範囲が含まれるように10 m × 15 mの方形区を1箇所設定しBraun-Blauquet (1964)による植物社会学的方法に基づいて、植生調査を行った。種の和名および学名は、大橋ほか (2015)、大橋ほか (2016a)、大橋ほか (2016b)、大橋ほか (2017a)、大橋ほか (2017b)、海老原 (2016)、海老原 (2017) に準拠した。生育地の植生は、植生高18 mのヒノキ植林地であり、低木層には、シキミ *Illicium anisatum* L., アラカシ *Quercus glauca* Thunb., サカキ *Cleyera japonica* Thunb., ヒサカキ *Eurya japonica* Thunb. 等の常緑樹が生育していた。草本層には、ウラジロ *Diplopterygium glaucum* (Houtt.) Nakai, シシガシラ *Blechnum niponicum* (Kunze) Makino, コアジサイ *Hortensia hirta* (Thunb.) H. Ohba et S. Akiyama, ヤブコウジ *Ardisia japonica* (Thunb.) Blume var. *japonica*, ツルアリドオシ *Mitchella undulata* Siebold et Zucc., テイカズラ *Trachelospermum asiaticum* (Siebold et Zucc.) Nakai var. *asiaticum* 等が生育していた (表1)。なお、同地点ではホンゴウソウ (*Sciaphila nana* Blume) の生育も確認された (図1f)。低木層の被度は10%, 草本層の被度は30%であり、林床は明るく部分的に光が届く状態であった (図1a, b, c)。2018年に植生調査は行っていないが、目視による確認において、2018年と2025年で生育環境に大きな変化は見られなかった。

向井ほか (2007) による宮島の生育地は、高木層にアカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc. (多くは松枯れ個体) のほか、常緑樹のカンザブノウキ *Symplocos theophrastifolia* Siebold et Zucc. やミミズバイ *Symplocos glauca* (Thunb.) Koidz. が優占するアカマツ-クロバイ群集である。宇賀峡の生育環境はヒノキ植林地であり、宮島とは異なる植生であった。ヒノキ植林地は中国地方に広く分布することから今後もシロシヤクジョウの新たな生育地が見つかる可能性が考えられる。

謝 辞

本稿をまとめるにあたり、世羅徹哉氏に貴重な助言をいただきました。2024年の現地調査には、世羅徹哉氏、松井健一氏、佐野俊和氏に同行いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 海老原 淳 2016. 日本産シダ植物標準図鑑 I. 475pp. 株式会社学研プラス, 東京.
- 海老原 淳 2017. 日本産シダ植物標準図鑑 II. 507pp. 株式会社学研プラス, 東京.
- 広島県 2022. 絶滅のおそれのある野生生物 (第4版) レッドデータブックひろしま 2021. <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tayousei/j-j2-reddata2-index3.html> (2025年10月25日確認)
- 向井誠二・坪田博美・澤田つや子・北本照子・吉野由紀夫・関 太郎 2007. 宮島におけるシロシヤクジョウ *Burmannia cryptopetala* Makino の発見. *Hikobia* 15: 61–66.
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 2015. 改訂新版 日本の野生植物 1. 391pp. 株式会社平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 2016a. 改訂新版 日本の野生植物 2. 381pp. 株式会社平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 2016b. 改訂新版 日本の野生植物 3. 338pp. 株式会社平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 2017a. 改訂新版 日本の野生植物 4. 348pp. 株式会社平凡社, 東京.
- 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司 2017b. 改訂新版 日本の野生植物 5. 474pp. 株式会社平凡社, 東京.
- サイエンスミュージアムネット <https://science-net.kahaku.go.jp/> (2025年10月18日確認)

表 1. シロシャクジョウ生育地の植生

Table 1. Vegetation in the *Burmannia cryptopetala* habitat

調査年月日 2025 年 8 月 14 日									
海拔	180 m	階層		高さ (m)		植被率 (%)		胸高直径 (cm)	
傾斜方位	S34E	高木層		18.0		97		25	
傾斜角度	36°	低木層		2.0		10		1	
調査面積	10 m × 15 m	草本層		0.4		30		—	
階層	種名	被度・群度	学名						
高木層	ヒノキ	5・5	<i>Chamaecyparis obtusa</i> (Siebold et Zucc.) Endl.						
低木層	シキミ	1・2	<i>Illicium anisatum</i> L.						
	アラカシ	1・2	<i>Quercus glauca</i> Thunb.						
	サカキ	+・2	<i>Cleyera japonica</i> Thunb.						
	ヒサカキ	+・2	<i>Eurya japonica</i> Thunb.						
	アクシバ	+・2	<i>Vaccinium japonicum</i> Miq. var. <i>japonicum</i>						
	モミ	+	<i>Abies firma</i> Siebold et Zucc.						
	ヒノキ	+	<i>Chamaecyparis obtusa</i> (Siebold et Zucc.) Endl.						
	ツクバネガシ	+	<i>Quercus sessilifolia</i> Blume						
	ヤマウルシ	+	<i>Toxicodendron trichocarpum</i> (Miq.) Kuntze						
	コアジサイ	+	<i>Hortensia hirta</i> (Thunb.) H.Ohba et S.Akiyama						
	ヤブツバキ	+	<i>Camellia japonica</i> L. var. <i>japonica</i>						
草本層	ウラジロ	1・2	<i>Diplopterygium glaucum</i> (Houtt.) Nakai						
	シシガシラ	1・2	<i>Blechnum niponicum</i> (Kunze) Makino						
	シキミ	+・2	<i>Illicium anisatum</i> L.						
	シロシャクジョウ	+・2	<i>Burmannia cryptopetala</i> Makino						
	コアジサイ	+・2	<i>Hortensia hirta</i> (Thunb.) H.Ohba et S.Akiyama						
	ヒサカキ	+・2	<i>Eurya japonica</i> Thunb.						
	ヤブコウジ	+・2	<i>Ardisia japonica</i> (Thunb.) Blume var. <i>japonica</i>						
	アクシバ	+・2	<i>Vaccinium japonicum</i> Miq. var. <i>japonicum</i>						
	ツルアリドオシ	+・2	<i>Mitchella undulata</i> Siebold et Zucc.						
	テイカカズラ	+・2	<i>Trachelospermum asiaticum</i> (Siebold et Zucc.) Nakai var. <i>asiaticum</i>						
	ソヨゴ	+・2	<i>Ilex pedunculosa</i> Miq.						
	スゲ属の一種	+・2	<i>Carex</i> sp.						
	トウゲシバ	+	<i>Huperzia serrata</i> (Thunb.) Trevis.						
	キジノオシダ	+	<i>Plagiogyria japonica</i> Nakai var. <i>japonica</i>						
	オニカナワラビ	+	<i>Arachniodes chinensis</i> (Rosenst.) Ching						
	モミ	+	<i>Abies firma</i> Siebold et Zucc.						
	ホンゴウソウ	+	<i>Sciaphila nana</i> Blume						
	イタビカズラ	+	<i>Ficus sarmentosa</i> Buch.-Ham. ex Sm. subsp. <i>nipponica</i> (Franch. et Sav.) H.Obashi						
	アラカシ	+	<i>Quercus glauca</i> Thunb.						
	ヤマウルシ	+	<i>Toxicodendron trichocarpum</i> (Miq.) Kuntze						
	コガクウツギ	+	<i>Hortensia luteovenosa</i> (Koidz.) H.Ohba et S.Akiyama var. <i>luteovenosa</i>						
	エゴノキ	+	<i>Styrax japonicus</i> Siebold et Zucc.						
	アセビ	+	<i>Pieris japonica</i> (Thunb.) D.Don ex G.Don subsp. <i>japonica</i> var. <i>japonica</i>						